

礼らいはいはい拜い

令和7年4月14日
1号



「仏心者大慈悲是也」

～本校で学んで欲しいこと～

新しい年度が始まりました。新入生にとつては目新しいことの連続で、心も右へ左へとなかなか定まらない日が続いているのではないのでしょうか。一方で、二年生・三年生にとつては、一つ学年を重ねたことでの環境の変化が、これから生活を進めていく中で期待や不安、揺れ動く心として現れてくるのではないのでしょうか。そのようなときは一旦立ち止まり、本校の建学の精神「三宝帰依」を思い出してもらいたいと思います。

- ・謙虚にして真理探究(懇)
- ・誠実にして精進努力(正)
- ・親切にして相互協同(徑)

瑠璃殿の正面には一対の聯(れん)が掲げられています。その一つは、第三代校長 大島先生が書かれた「仏心者大慈悲是也(ぶっしんしゃだいにじひこれなり)」の文字が彫られたものです。この詩句は、浄土宗の大切な経典である「浄土三部経」の一つ『観無量寿経(かんむりょうじゆきょう)』の一節から選び出されたものです。観無量寿経は、たとえ罪悪人であったとしても、どんな人でも南無阿弥陀仏のお念仏を称えることによつて救われ、極楽に往き生れることができることを説いたお教です。大島先生は、その教典の中から、どのような思いで、この詩句を選ばれたのでしょうか。

仏心者大慈悲是を含む部分を現在の言葉に訳すと、次のようになります。

「仏の心とは大慈悲です。これは、無縁の者(自分に関係があるとかないとかにかかわらずすべての人)さえも救う慈(いつく)しみによつて、生きとし生けるものすべてを救います。」という内容を示した所になります。慈悲の慈とは「苦しみを除いてあげること(抜苦)」を意味し、悲とは「樂しみを与えてあげること(与樂)」を意味しています。つまり、仏さまは生きとし生けるすべてのものに対して、幸せに生きていけるようにすることを約束してくださるという内容になります。

私達自身の生活に目を向けてみると、ついつい自分中心的な心になってしまいます。慈悲の心がある人でも、自分に関係のない人よりは、自分に関係のある人に心を向けてしまいます。慈悲という文字を分けてみると、「茲心非心」の四字で表すことができます。茲(こ)の心、心に非(あら)ず、つまり慈悲とは、自分の心を中心とするのではなく、相手の心や気持ちを自分の心のように考えることができるやさしさにあふれた心のあるり方と捉えることができ、私たちにとつてとても重要なことなのです。

大島先生が選ばれた、仏心者大慈悲是也には、本校の「すべての生きとし生けるものとともに、幸せに生きようとする自分を確立していこう」という願いが凝縮されているのです。この考えは学校内にとどまらず、また、また時代の変化に関わらず、自分の生涯を貫いて活かされるべき大切な精神であると思います。そして、その実践が、明るく・正しく・仲よく生きるという、本校の建学の精神なのです。本格的に学校生活がスタートする今、今日の自分の言動は明るく正しく仲良い関係をつくることができる心であったかを振り返り、よりよい環境を、そしてよりよい自分を作り上げていきましょう。